



West (第14号)

2023.2.8. 平井 利久

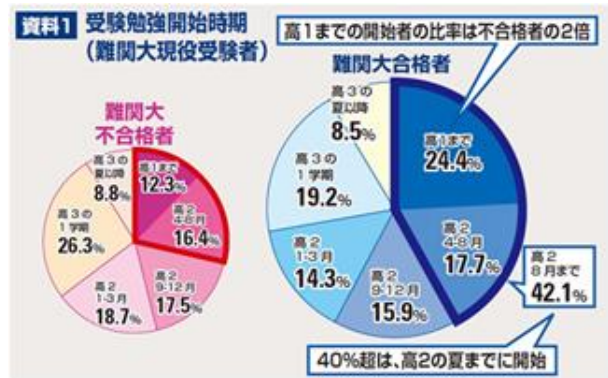
「共通テストを見据えて ~対策を考える~」

★2年生は、自習室や教室で受験勉強を始めています。よい傾向です。時間は有限です。

★1年生は2年生ゼロ学期、2年生は3年生ゼロ学期と捉え、新学年になる前に基礎・基本をしっかりと固めていきましょう。自学自習、仲間と教え合い、学び合いをしましょう。

★朝学の30分は貴重です。30分×600日(課業日3年間)=300時間分に相当します。この時間にしっかり学習しましょう。

★問題意識を持ち、インプットを確実にし、考え抜いてアウトプットをしながら思考過程を身に付けましょう。(入試で問われる「知識・理解、思考力・表現力、主体性」の向上)



【共通テスト全体として、どのような力を測ろうとしているのでしょうか】

今や大学は、選ばれた人だけ、研究をしようという人だけが行く時代ではありません。今の社会や企業が求めるのは、資料を読む力、情報処理能力です。いいか悪いかは別にして、そういう力を見ざるを得なくなっています。2次試験で教科試験がない国公立大や2次試験そのものがない私大もあるので、今の時代に通用する力を見るために大きなウエイトを占めるものが共通テストです。

共通テストでは満点は狙わなくてもいいのです。センター試験は皆さんが満点を取るつもりで勉強していました。しかし、上位層でなければ、様相が異なり、時間との闘いの共通テストは「全部は解けなくていい」というくらいの気持ちでいいと思います。大学全体ではどんどん入りやすくなっているので、本当に行きたいと思う大学、行くべき大学にチャレンジしてほしいと思います。

皆さんは、学問のベビーフードとしての学習をバランス良く継続し、学力を高めていかなければなりません。どんな学習でも、いやどんな仕事でも全ては単純作業(基礎)の集合体です。基盤が大切です。そして、「なぜ? どうして?」という疑問を大切にしながら、解決方法を見つけ、仮説、検証する探究力を高めましょう。もちろん、演習や模試の復習は必須です。基礎を固め、教科書を極めましょう。ペットボトルの足はなぜ3本なのか? そんなところから理科や数学のシカケが見えてくるかもしれません。

共通テストでは、基本的な知識や原理原則はもちろん、それらを踏まえて、複数のテキストや資料、グラフを比較して、相違点や共通点、論理展開、生徒や先生がどのような資料に着目し、どのような視点に立って会話を成立しているか、同じ出来事でも立場や視点を変えたとどのような評価ができるのか、具体的な事例に当てはまるとどんな現象になるのか、つまり、学習した内容がどのような場面に関連しているのか、仮説・検証・結果を含めた実験等、考えて、探して、結論づける探究の要素、普段の授業の意識や授業そのものが問われている試験となっています。

知の体系化、解決に至る過程、初動思考(もしかしたら・・・なるのでは)を含めた思考力を日々の授業で鍛えていくことが大切です。町を歩いているときに距離を計算してみるなど、「この場面でのこの公式が使える」という経験を積んでほしいと思います。今年の数I・Aで出たバスケットボールのシュートの軌道の問題も参考になるでしょう。また、共通テストは大量に文章を読ませます。

しかも限られた時間内です。読書をし、集中力を高め、必要な情報を短時間にまとめる要約力を高めましょう。授業の内容でも友達に端的にアウトプットしてみてください。

学力を向上させるために、自学自習の重要性はいうまでもありません。自学自習の習慣が当たり前の雰囲気を学校全体で作っていくことが必要です。「自学自習、教え合い、学び合い」の風土を醸成し、「基礎基本の確立」を図ってください。

＜2023年出題 国語 普段の授業の再現が試験で問われている例＞

問 題

【どんな意識を持って対策をすればよいのでしょうか】

対策は、まずは、「慣れる」しかないのではないのでしょうか。新聞を読みましょう。スポーツでもインタビューでも、関心のある記事でいいのです。必要な情報を取捨選択しながら文章を読むことに慣れてほしいと思います。

共通テストで測ろうとしている力は明確です。センター試験が基礎的な学力の定着を見ていたのに対し、共通テストは一步踏み込み、「大学入学後に必要な力」を試す出題になっています。単に知識を問うのではなく、知識をどう使うか。知っていることは当然で、それをどう使えば問題解決できるのか。いろいろな場面を提供しながら、「現場力」を測るような工夫がされています。例えば数学の問題でも、場面設定を理解するのに国語力が必要です。英語も、グラフや資料を読み解くのに数学力が必要な問題もあります。特定の教科や分野だけ勉強するのではなく、いろいろな教科で勉強したことをフル活用する必要があります。

理科、地歴以外は高2までの範囲なので、早く基礎を固めて、見たことのない問題に当たるといいでしょう。センター試験対策には過去問がよいと言われていましたが、これからは過去問をなぞるだけで終わるのではなく、新しい形式の問題にたくさん当たることが重要です。そのためには、模試を受けることです。模試の質もかなり向上すると思われます。業者によってはオンラインでも受けられます。

今の皆さんは動画を倍速で視聴するのに慣れています。長い問題文も、トップ層の生徒は読めています。昔はなかった英語のリスニングや、地歴の会話文や資料の問題にも十分対応しています。共通テストは3回実施し流れは見えました。試行調査より改善したと思います。試行調査で出たような実用的な国語の問題が出なかったのは、生徒の現実に合わない問題はよくないという判断だったのでしょうか。また、「この場面でこの公式が使える」という日常生活で知識を活用する経験を積んでほしいと思います。日々の勉強の身近な目標は入試ですが、勉強で得た知識はこの先何十年も使えるものです。こうした興味関心は、探究を深めた生徒には得意な分野なのではないかと思います。

2025年から共通テストに加わる新科目「情報」も、生徒の方が詳しいケースがあるのではないのでしょうか。何でも学校から教えてもらうのではなく、生徒同士で考えてみる。今が過渡期です。